

経営比較分析表（令和6年度決算）

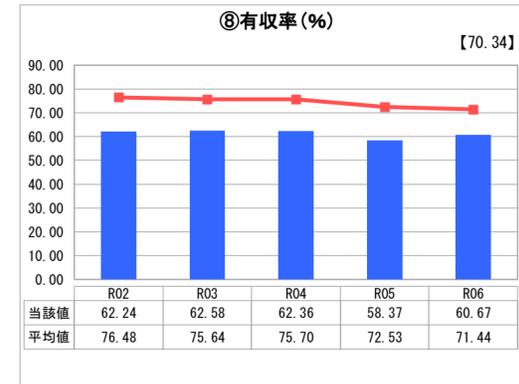
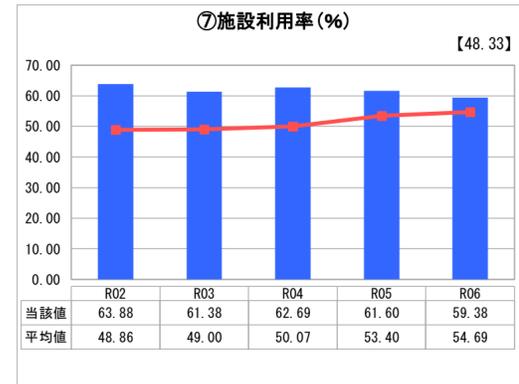
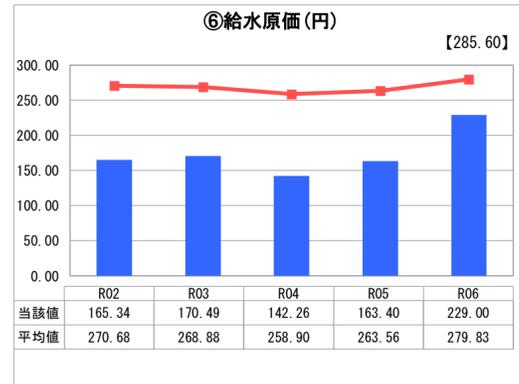
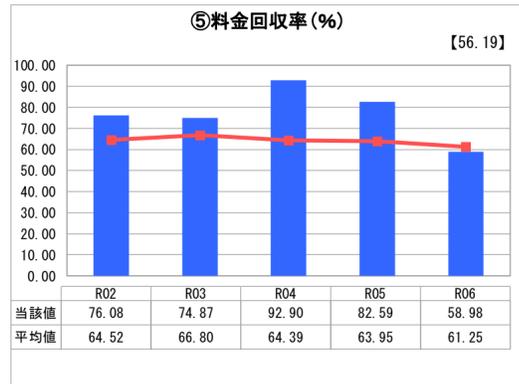
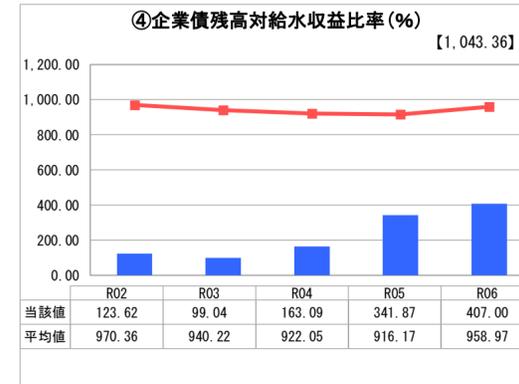
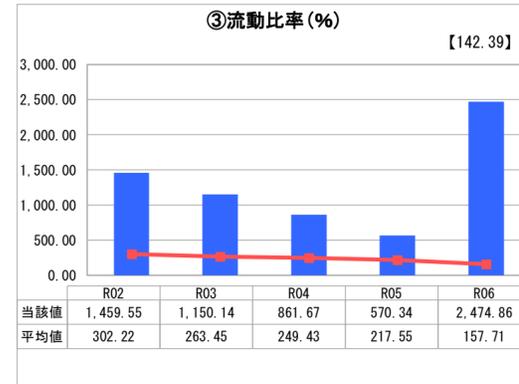
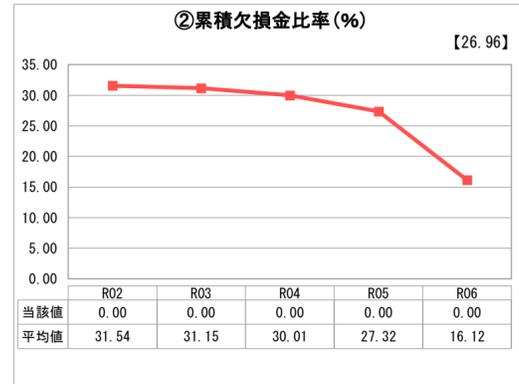
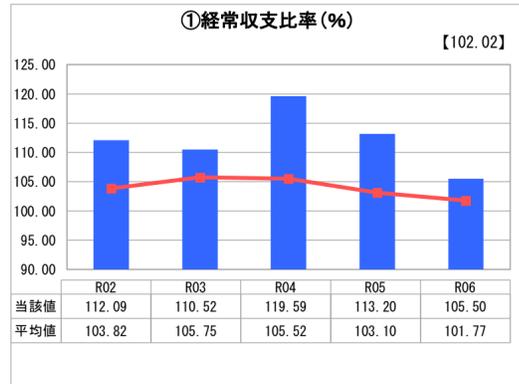
福井県 大野市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	簡易水道事業	C3	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	84.18	12.50	3,597	

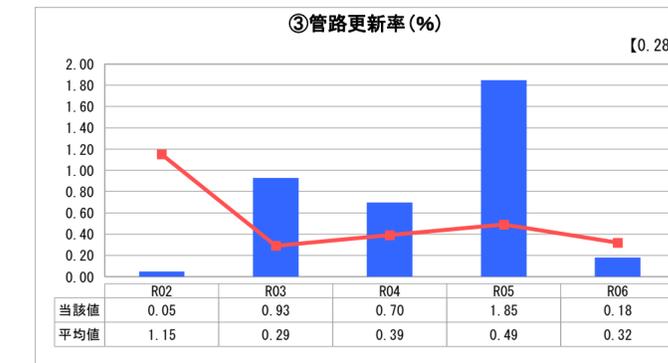
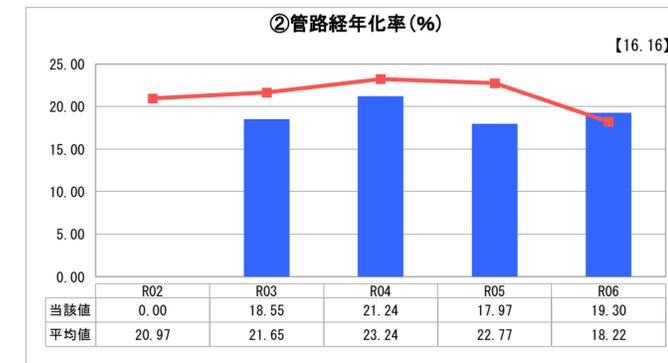
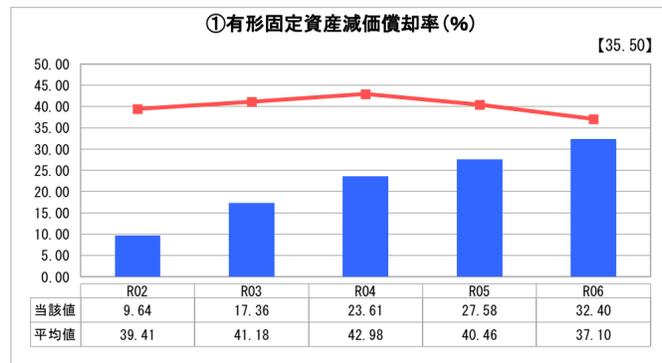
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
29,821	872.43	34.18
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
3,697	11.50	321.48

グラフ凡例	
■	当該団体値(当該値)
—	類似団体平均値(平均値)
【	令和6年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

① 経常収支比率は100%を超えているが、一般会計から簡易水道会計に基準外繰入金を繰出していることによる。
 ② 累積欠損金はないが、①と同じで一般会計から簡易水道会計に基準外繰入金を繰出していることにより欠損金を出していない。
 ③ 流動比率は100%以上である。引き続き健全な経営に努める。
 ④ 企業債残高対給水収益比率は、起債の借入により増加した。今後も、事業の必要性、優先度を見極め企業債を使用するように努めていく。
 ⑤ 料金回収率は100%を下回っており、料金収入だけで事業が維持できない状況である。前年度から料金回収率が減少したのは、費用が増大したためである。今後も、人口減による有収水量の減少が予想されることから、適正な料金設定と施設の統合による経常経費の削減等に努める。
 ⑥ 給水原価は平均値より下回っているが、費用の増により昨年度より給水原価は増加した。今後は、有収水量の減少により上昇の傾向が続くと考えられるため、経営の更なる効率化を図る必要がある。
 ⑦ 施設利用率は平均値に比べ高いが、今後は有収水量の減少見込みから減少傾向になる見込みである。今後の更新時にはダウンサイジングを図る。
 ⑧ 有収率は、平均値より低い。100%に近くなるように適正な修繕や老朽化施設の計画的な更新等、より一層の漏水防止対策に努めたい。

2. 老朽化の状況について

① 有形固定資産減価償却率は、平均よりやや低い水準で推移している。引き続き、施設の老朽化状況を踏まえ、計画的な更新を進めていく必要がある。なお、令和2年度に法適用した際、帳簿原価を消耗により減じた上で、減価償却を開始している。
 ② 管路経年化率は、法定耐用年数を経過した管路が増大したことにより増加している。今後、大野市営水道事業基本計画の更新基準に従い計画的な更新に努める。
 ③ 管路更新率については、延命化のため適切な修繕と併せ、計画的な管路の更新に取り組む

全体総括

給水人口の減少による、料金収入の減少への対応と、安定した水源の確保と老朽施設の更新が課題である。
 現在、一般会計からの基準外繰入により経営の健全性は保たれているが、今後施設更新のピークを迎えるにあたり、一般会計に過度に依存しないよう、適正な料金設定、合理的な施設統廃合や計画的な施設の更新等による維持管理費の削減など効率的な経営に努める。